

第七回 蓼科山聖光寺 截金仏画展

令和五年八月六日(日)～二十七日(日)

歴史学者 故梅原猛博士の遺作「聖徳太子(全四巻)」を読みました。大国「隋、唐」を取り巻く激動のアジアの中、太子がいかに叡智を以て平和国家造りに邁進されたかを知り改めて感動しました。世界は武力衝突、分断、難民問題と、今まさに、人間の叡智が試されています。世の為政者に少しでも太子の遺徳が伝播すればと願います。

「聖徳太子と四天王」を描いてみました。

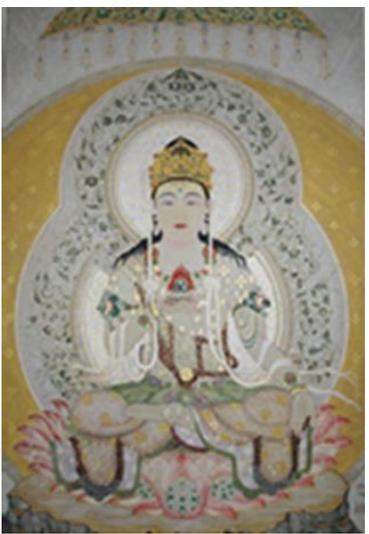
① 聖徳太子と四天王 「平和」



② 吉祥天 「吉兆」



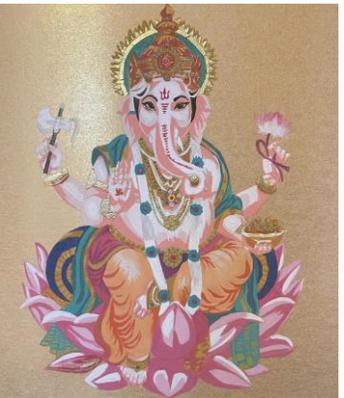
③ 虚空蔵菩薩「叡智」



会員作品

④ 女神ガネーシヤ「夢叶う」

(齋藤花帆 高一)



⑤ 「陰陽地鎮」

(齋藤美也子)



截金(きりかね)は金箔や銀箔を細かく切り、仏画などに加飾する、華麗典雅な技法で、平安時代に盛行しましたが、難しさもあり現代では珍しい技法となりました。